1．令和4年10月～12月期の景気動向

今期のDI平均値は△31．8ポイント。卸売業は12ポイント、サービス業は7ポイント上がったが、建設業は5ポイント、製造業は15ポイント、小売業は4ポイント下がった。前期の7～9月の△30．8ポイントから1ポイントマイナスとなった。

業種／項目	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	10～12月 今期状況	1～3月 見通し	10～12月 今期状況	1～3月 見通し	10～12月 今期状況	1～3月 見通し	10～12月 今期状況	1～3月 見通し	10～12月 今期状況	1～3月 見通し
売上高	△ 38 (△ 50)	△ 31 (△ 69)	△ 22 (0)	△ 19 (△ 17)	△ 22 (△ 23)	△ 32 (△ 11)	△ 44 (△ 53)	△ 40 (△ 61)	△ 6 (△ 5)	△ 29 (17)
採算	△ 57 (△ 47)	△ 50 (△ 47)	△ 39 (△ 19)	△ 39 (△ 25)	△ 45 (△ 22)	△ 56 (△ 22)	△ 42 (△ 42)	△ 42 (△ 46)	△ 23 (△ 49)	△ 17 (△ 49)
資金繰り	△ 27 (△ 6)	△ 27 (△ 25)	△ 16 (△ 22)	△ 16 (△ 25)	△ 33 (△ 22)	△ 22 (△ 22)	△ 42 (△ 35)	△ 32 (△ 38)	0 (△ 34)	△ 13 (△ 29)
業況	△ 38 (△ 33)	△ 31 (△ 53)	△ 27 (△ 12)	△ 28 (△ 20)	△ 32 (△ 44)	△ 38 (△ 33)	△ 40 (△ 36)	△ 32 (△ 40)	△ 22 (△ 29)	△ 22 (△ 38)
経営上の当面する問題点 1位	材料価格の上昇		原材料価格の上昇		仕入単価の上昇		需要の停滞		需要の停滞	
経営上の当面する問題点 2位	官公需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		仕入単価の上昇		材料等仕入単価の上昇	
経営上の当面する問題点 3位	民間需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		従業員の確保難		販売単価の低下		利用者ニーズの変化への対応	
業種別コメント	売上高が12ポイントプラスなっているが、建築資材価格の上昇を転嫁したもので、収益が見込めないことから採算は10ポイント、業況で5ポイントマイナスとなり、資金繰りでは21ポイントの大幅なマイナスとなっている。来期の見通しは官公・民間需要の停滞が続くことが予想されるため、採算、資金繰り、業況ともにマイナスとなっている。		売上は減少傾向で原材料費の高騰が依然として続いているが、価格転嫁が難しいことにより採算で20ポイントと大幅なマイナスとなった。資金繰りは柔軟な融資により若干は改善されているが、需要の停滞などの不安材料も多いため、業況は15ポイントマイナスなった。来期は円安や原材料価格の上昇が続くことが予想されることから厳しい業況が懸念される。		売上高は仕入単価の上昇による影響から横ばいで推移している。流通コストや販売経費の上昇も著しく、商品価格に転嫁が追いつかないことで、採算は23ポイントと大幅にマイナス、資金繰りも11ポイントマイナスとなった。また、来期の見通しは引き続き仕入単価等の上昇が予想されることから需要の停滞が懸念される。		原材料の高騰が続いているなかで、仕入単価の上昇によって売上高は9ポイントプラスとなった。採算には横ばいで推移しているが、需要の停滞により、業況は4ポイントマイナス、資金繰りは7ポイントマイナスとなった。来期の見通しとして全項で回復傾向であるが、経営課題も多く、急激な回復は見込めない。		コロナによる行動制限の緩和により、客足は戻り始めたが、期待したほどではなく売上高は横ばいとなった。採算26ポイント、資金繰り34ポイントと大幅に回復し、業況も7ポイントプラスとなっている。来期の見通しについて需要の停滞や原材料の高騰による影響が懸念されることから、顧客ニーズを取り込んだ経営努力が求められる。	



とくに好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
(50≦DI)	(25≦DI<50)	(0≦DI<25)	(△25≦DI<0)	(DI<△25)

※当所では分析にあたってD･I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※( )は前回調査時のD･I値

※詳細につきましては、加茂商工会議所ホームページ(http://www.kamocci.or.jp)をご覧ください。

